

未来の建設コンサルタントの魅力について

堤 安希佳

一般社団法人建設コンサルタンツ協会 常任理事



建設コンサルタントの役割の多様化

魅力ある建設コンサルタント業界の実現に向けて、協会として、「建設コンサルタントビジョン2014」と「中期行動計画（アクションプラン）」に基づき、「要望と提案」「新たなインフラ整備構想の提言」などの活動を推進しています。そして、「新ビジョン：建設コンサルタントビジョン2025」の策定を進めております。

これらの様々な取り組み成果には、建設コンサルタントの役割の多様化が標されております。

事業全体の多様な課題を解決する事業マネジメント

建設コンサルタントは、企画・計画段階、調査・設計段階、施工段階、維持管理・運用段階の各段階、さらには災害への対応の単独の役割に加えて、複数段階の事業プロセスのマネジメントを担うことが求められています。そのためには、社会資本の事業プロセスの効果的な推進とシームレス化に資する多様な契約形態として、事業促進PPP、PM/CM、PPP/PFI、アセットマネジメントといったマネジメント系業務が導入され、技術分野のほかに、法務、労務、ファイナンスなどの幅広い分野の知見を活かして事業執行を支援する役割が求められています。

このような役割にあたる建設コンサルタントは、特定分野にとどまらず多様な分野の専門技術力に加えて、プレゼンテーション力、調整力、交渉力、情報力、判断力、そして組織統制力、さらにはDX推進といった多様な能力を駆使しなければなりません。

地域のインフラマネジメント・エリアマネジメント

建設コンサルタントは、将来にわたって地域の社会資本の維持管理に資する多様な契約形態として導入されている複数年契約、包括発注、共同受注などへの参画が求められています。特に地域特性に精通している地域コンサルタントの役割は大きいと考えられます。地域コンサル

タント単独、地域コンサルタント間の連携、地域コンサルタントと広域コンサルタントの連携、建設コンサルタントと他業種の連携など、多様な役割を果たすことが求められています。ここでも、建設コンサルタントは、多様な分野の専門技術力に加えて多様な能力を駆使しなければなりません。

未来の国土づくりやまちづくりに向けた政策提案

多様な分野のバックボーンを背景に事業プロセス全体（企画・計画、調査・設計、施工管理、維持管理・運用）のマネジメントを担うことができる建設コンサルタントは、未来の国土づくりやまちづくりの最上流域で、その社会的課題に対して長期的なリスクと機会を見据えた実装性の高い有益な政策提案を積極的に行う必要があります。

地域の社会的課題を解決する新たな事業開拓

建設コンサルタントは、公共調達に関わり社会資本を支えるだけではなく、自ら事業主体あるいは出資者として社会的課題を解決するための様々なサービス（防災、観光、次世代モビリティ、情報提供、再生可能エネルギー、教育、医療、福祉など）を提供する事業を開拓していくとともに、さらにはそのサービス拠点を中心としたエリアマネジメントを担う必要があります。

未来の建設コンサルタントの魅力

未来に向けて、建設コンサルタントの役割の多様化はさらに進展し、多様な能力が求められるようになると考えられます。現在のフィールドにて培った強みや魅力をバックボーンとして、事業マネジメント、地域マネジメント、政策提案、事業開拓といった多様な新たなフィールドへの活躍を展望し、自らのキャリアパスを描き実現することが、未来の建設コンサルタントの魅力ではないかと考えます。